

追悼特集：地域医療に生涯を捧げた福井康太郎先生 ～岩城島の医療を支え続けた献身的な医師の軌跡～



▲令和2年、岩城地区での第1回目コロナワクチン接種の様子



▲若山牧水 肖像
昭和3年(若山牧水記念文学館 提供)

三浦敏夫氏が建立した牧水夫妻の歌碑

▲参加者全員で歌碑に献酒

【島の医療を支えた献身的な医療活動】

昭和64年、岩城島民の熱い要請を受けて岩城へき地診療所に赴任以来、37年にわたり島の医療を支え続けてこられた福井先生。熊本大学医学部出身の放射線科専門医でありながら、過疎・高齢化が進む離島において地域医療の礎を築くとともに、医療過疎地の離島を選ばれた決断は真の医療人としての使命感の表れでした。

【医療基盤の確立と貢献】

平成5年に岩城へき地診療所を民営化して岩城診療所を開設。限られた環境の中で医療設備の充実とスタッフ確保に尽力し、島民が安心して診療を受けられる体制を構築されました。

小児から高齢者まで、昼夜を問わず診療に携わり、島民からの厚い信頼と尊敬を得て地域での学校医としての活動や介護認定審査など、医療の枠を超えて保健・福祉の分野でも多大な貢献をされました。

さらに令和2年からの新型コロナウイルス感染症の流行時には、ワクチン接種をはじめとする迅速な対応で島民の健康を守り、最前線で地域医療を支え続けられた姿勢は、多くの人々の心に深く刻まれています。

平成16年に岩城村社会福祉功労者表彰受賞。平成20年第37回読売新聞社都道府県医療功労賞受賞。平成26年上島町功労者表彰受賞。そして、令和5年には離島振興70周年を記念した国土交通大臣表彰を受賞され、その功績が広く認められました。地域医療に献身された福井先生は、離島医療の模範として多くの医療従事者に勇気と指針を与え続けてくださいました。



謹んで哀悼の意を表し、
心よりご冥福をお祈り申し上げます。



医療法人 岩城診療所
福井康太郎先生(享年81歳)

若山牧水生誕140年記念
第14回 若山牧水顕彰全国大会
～しまなみ・ゆめしま大会～

主催 若山牧水しまなみ顕彰会
後援 上島町・上島町教育委員会

みなと交流センター(今治市)および上島町岩城郷土館において、5月18日(日)に「第14回若山牧水顕彰全国大会～しまなみ・ゆめしま大会～」が開催されました。

午前の部は、伊藤一彦氏(若山牧水記念文学館館長)と、大森静佳氏(歌人)、土岐友浩氏(歌人)、佐藤文香氏(俳人)、山口遼也氏(俳人)の5名の講師陣によるシンポジウムが行われました。1部では「牧水第6歌集『みなかみ』をことん論じる～定型と韻律をめぐって」、2部では「短詩形の過去と未来」牧水・山頭火・放哉から考える」と題して、パネリストによる議論が行われました。

若山牧水の第6歌集『みなかみ』は、牧水が大正2年5月18日から5日間、岩城島の三浦邸(現在の岩城郷土館)で滞在した際に編集され、それを補佐したのが三浦家18代当主である三浦敏夫氏でした。この時期の牧水は、宮崎県にある実家の家業を継ぐのか、歌人の道を進むのかを悩んでいたこともあり、その苦しみ『みなかみ』の歌に反映されていました。伊藤氏は『みなかみ』を、短歌の先駆けの・冒険的な歌集であると評価し、パネリストは牧水の他の歌集に掲載された歌とを比較しながら、『みなかみ』の持つ特徴について議論を深めました。

午後の部は岩城島クルージングが実施され、参加者は岩城の島歩きツアーと、岩城郷土館の見学を行いました。また、郷土館中庭にある三浦敏夫氏が建立した牧水夫妻の歌碑を囲んで献酒を行い、参加者全員で牧水と敏夫氏に思いを馳せました。



牧水が逗留した聴松庵(写真中央)

▲三浦家18代当主 三浦敏夫 氏



上島町岩城郷土館



島歩きツアー



パネリストの土岐先生、大森先生



シンポジウム会場の様子